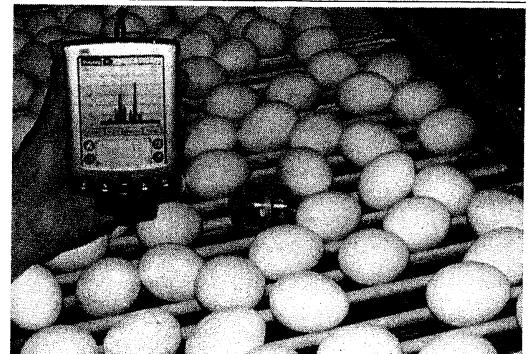


破卵追跡システム「クラックス」発売へ

東洋システムが5月から



破卵追跡システム「クラックス」を
インライン農場で使用している様子

破卵率の増減は採卵
農場の操業性に大きな影響
を与えるが、東洋システム
（安田勝彦社長）は、破卵率低下に役立てる破卵
追跡システム「クラックス」を、カナダのベン
チャー企業、センサー・ワーフ（以下、センサー・ワーフ社）と提携し、5月から発売する。

これまで、北米では「クラックス」を搭載したセンサー・エッグとペームコンピュータを組み合わせ、センサー・エッグをセンサー卵を使い、データをパソコンに接続、分析ソフトを使用して、センサーと通信回路でセンサー・エッグとペームコンピュータのデータを収集して、センサーをセンサー卵を使い、データをパソコンに送信する。この「クラックス」

を農場やGPセンター、配送用トラックに定期的に使用することによって、鶏卵から消費者に届くまでの破卵発生率を、最も低レベルに保つことができる。

米国とカナダでは、すでに今年1月から発売しているが、日本向けにはセンサー・エッグの販売量を六四〇（米国・カナダ向けは五八〇）にすることや、ソフトの日本語への改良を行なうため、今年五月からの発売を予定している。価格は米国やカナダと同一価格と同じ、米ドルで八千九百五十五ドルを予定している。

ノーエッグが受けた衝撃を重力gで数量的かつ連続的にデータ収集し、これをペームコンピュータが受信して、表示する特許申請中。

新 鳴 鷄

2003.2.25